

福島第一原子力発電所の状況

平成 24 年 10 月 4 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (10/4 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 2.0 m ³ /h	34.6	105.0 kPa abs	A系： 0.00 vol%
		給水系：約 2.8 m ³ /h			B系： 0.00 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 5.0 m ³ /h	45.8	6.18 kPa g	A系： 0.09 vol%
		給水系：約 1.9 m ³ /h			B系： 0.10 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 4.5 m ³ /h	47.1	0.19 kPa g	A系： 0.21 vol%
		給水系：約 2.4 m ³ /h			B系： 0.20 vol%

* 絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (10/4 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	27.0
2号機	循環冷却システム	運転中	27.3
3号機	循環冷却システム	運転中	25.0
4号機	循環冷却システム	運転中	31

* 各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘドランプの注入を適宜実施。

【3号機】・H24/10/4 0:18 頃 使用済燃料プールの塩分除去装置(モバイルRO装置)において異常警報(バッファタンク水位高)が発生し同装置が停止。同日 2:15 頃、場を確認し、漏えいが無いことを確認。念のため、装置入口の手動弁も閉操作を実施。引き続き、同装置内に設置されたバッファタンクの水位上昇の原因について調査を行う予定。なお、使用済燃料プール冷却系については異常はなく運転中。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元 →	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	→ 3号機タービン建屋	10/4 10:19 ~ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	→ 集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容 処理建屋 (高温焼却炉建屋)]	10/4 10:43 ~ 移送実施中
4号機	4号機 タービン建屋	→ 集中廃棄物処理施設 [プロセス主建屋]	9/28 10:20 ~ 移送実施中

<4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (10/4 7:00 時点)

設備	セシウム吸着装置	第二セシウム吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	停止中	停止中*	停止中	水バランスをみて断続運転	水バランスをみて断続運転

* フィルタの洗浄を適宜実施。

- H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。
- H24/9/25 11:03 第二セシウム吸着装置の配管部等の健全性確認を目的とした検査を実施するにあたり、同装置を停止することから、タービン建屋の水位の状況等を踏まえて、セシウム吸着装置を起動。
12:59 第二セシウム吸着装置を停止。
- H24/10/3 9:00～所内電源工事に伴う受電切り替えに関連しセシウム吸着装置および淡水化装置(逆浸透膜式)を停止。
なお、滞留水処理装置の停止期間が短いこと、およびバフファタンク内に淡水化处理した水は十分あることから、原子炉への注水に影響はない。
- H24/10/4 10:09 第二セシウム吸着装置の配管部等の検査が完了したことに伴い、同装置を起動。
10:55 定常流量(約 42.4 m³/h)に到達。

<5. その他>

- H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5, 6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。
- H24/2/23～ 6号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- H24/3/6 ～ 5号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- H24/4/25～ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。
- H24/10/3 15:35 頃 5, 6号機建屋内の滞留水を処理している淡水化装置(停止中)の点検において、当該装置中継端子台に焦げ跡があることを当社社員が発見。このため、15:56 消防署へ連絡。なお、周辺の機器への影響は確認されていない。18:05 消防署による現場確認の結果、火災ではないと判断。

以上